

■論文題目

胸郭側方偏位および胸郭形状と歩行立脚期における下腿側方傾斜角度の関係

Relationship Between Thoracic Lateral Deviation and Thoracic Shape and the Lateral Tilt Angle of Shank in the Gait Stance Phase

■著者名

小室 成義¹⁾ 本間 友貴²⁾ 安達 亮介³⁾ 柿崎 藤泰⁴⁾

1) 医療法人社団 遼山会 関町病院 リハビリテーション科

2) IMS(イムス)グループ クローバーのさと イムスケア カウピリ板橋

3) 株式会社 東京リハビリテーションサービス

4) 文京学院大学大学院 保健医療科学研究科

■要旨

〔目的〕胸郭側方偏位および胸郭形状の左右非対称性と歩行立脚期における下腿側方傾斜角度の左右非対称性との関係について検討した。

〔対象と方法〕健常成人男性 18 名を対象とした。安静立位時の胸郭側方偏位および胸郭形状と歩行立脚期の下腿外傾角度変化量を計測した。胸郭側方偏位量より全対象 18 名，左偏位群 15 名，右偏位群 3 名に群分けした。

〔結果〕下腿外傾角度変化量は，全対象では立脚期前半相，左偏位群では前半相および後半相で，左側と比較して右側が有意に大きかった。胸郭側方偏位量および下位胸郭形状左右比と後半相の下腿外傾角度変化量左右比の間には有意な負および正の相関が認められた。

〔結語〕胸郭左側方偏位および下位胸郭形状の左右非対称性が増大するほど，後半相の下腿外傾運動は右側で大きくなることが示唆された。

キーワード：胸郭，歩行，下腿側方傾斜角度

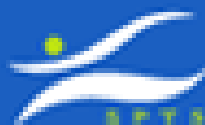
■掲載雑誌

理学療法科学 35 巻 2 号 pp187–191, 2020 年

https://www.istage.jst.go.jp/article/rika/35/2/35_187/article-char/ja

ISSN 1041-0667

理学療法科学



■ 理学療法科学学会 ■